

令和3年度児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和4年2月15日

事業所名：学びの広場じゃんぷ

保護者等数13名 回答数13

割合 100%

| 区分                   | チェック項目   | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | わからない | ご意見  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標 |
|----------------------|--|------|---------------|-----|-------|--|------------------------------|
| 環境・<br>体制整備          | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている  | 85%  | 8%            | 0%  | 8%    | 子供が楽しく通って学べてるので、大変感謝しております<br>3人グループでも十分スペースが確保されていると思います                              |                              |
|                      | 2 職員の配置数や専門性は適切である   | 77%  | 15%           | 0%  | 8%    | 専門的な事はわからないのですが、よく子供を見てくださっていると感じます  |                              |
|                      | 3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか                         | 92%  | 0%            | 0%  | 8%    | よく理解して子供は動いているので、わかりやすいと思います<br>マーク等視覚で理解できるように工夫していただいている子どもが理解できるような空間にいただいていると思います。 |                              |
|                      | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっているか   | 93%  | 0%            | 0%  | 7%    |  |                              |
| 適切な<br>支援の<br>提供     | 5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で児童発達支援計画が作成されている   | 92%  | 8%            | 0%  | 0%    |  |                              |
|                      | 6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドライン「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |                              |
|                      | 7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている  | 100% | 0%            | 0%  | 0%    | 順調に身につけていけるので、問題ないです   |                              |
|                      | 8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている  | 85%  | 0%            | 0%  | 15%   | 色んな工夫がされて、同じ内容でもバージョンが変わってまいりますので、子供もバリエーションが広がっていると思います                               |                              |
| 保護者<br>への<br>説明<br>等 | 9 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がされている   | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |                              |
|                      | 10 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされている                     | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |                              |
|                      | 11 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われている  | 77%  | 15%           | 0%  | 8%    | アドバイスを常々もらってます<br>活動のフィードバックや連絡帳のやりとり、他の保護者の方との座談などさまざまな形で理解を深めさせていただいています。            |                              |
|                      | 12 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態、課題について共通理解ができている   | 77%  | 23%           | 0%  | 0%    | しょうもない事もわりと伝えております<br>ほとんど参加できていないため。  |                              |
|                      | 13 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている   | 92%  | 8%            | 0%  | 0%    | お話の中でも色々教えてもらってます。   |                              |
|                      | 14 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている  | 46%  | 15%           | 15% | 23%   |  |                              |
|                      | 15 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている                        | 92%  | 0%            | 0%  | 8%    | 特にこちらから相談を持ちかけた事はありませんが、対応して下さると思っています   |                              |
|                      | 16 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている  | 92%  | 0%            | 0%  | 8%    |  |                              |
|                      | 17 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている                                     | 69%  | 15%           | 0%  | 15%   |  |                              |
| 18 個人情報保護に十分注意している   | 100%   | 0%   | 0%            | 0%  |       |  |                              |

|         |    |   |     |     |    |     |                                |  |
|---------|----|---|-----|-----|----|-----|--------------------------------|--|
| 非常時等の対応 | 19 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されている | 85% | 0%  | 0% | 15% |                                |  |
|         | 20 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている                                    | 46% | 0%  | 8% | 46% | まだ通って日が浅いのでわかりません              | 避難訓練は年2回、春と年度末に実施していますが、放デイの時間帯で行うことが多いです。保護者の連絡体制確認のためのLINE返信は、訓練に参加されない利用者様にもお願いしています。 |
| 満足度     | 21 | 子どもは通所を楽しみにしている   | 85% | 15% | 0% | 0%  | 大変楽しみにしております                   |  |
|         | 22 | 事業所の支援に満足している   | 92% | 8%  | 0% | 0%  | 楽しく子供が通えて、結果も伴い成長が見れるので満足しています |  |

(注釈)

1.「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

2.「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々のお子さんについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標および達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

3.「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

4.「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた関わり方や声かけの仕方等を学びることにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

令和3年度放課後等デイサービス 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和4年2月15日

事業所名：学びの広場じゃんぷ

保護者等数22名 回答数19

割合 86%

| 区分          | チェック項目   | はい  | どちらとも<br>いえない | いいえ | わからない | ご意見  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |
|-------------|--|-----|---------------|-----|-------|--|--|
| 環境・<br>体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている                            | 79% | 5%            | 5%  | 11%   | 活動の様子が外からちらりとみているのと、子供からは聞き取りがじゅうぶんできないのでわかりません<br>いつも良くして頂いて感謝しています             | コロナ禍であることや、個人情報等に配慮し、保護者様がお迎えに来られた際は玄関先にてお待ちいただいています。そのため、十分に様子が見えていただけない面がございます。放デイの学習スペースは、個別学習の部屋以外に2、3箇所設置して、各々学習しやすい場所を選べるようにしています。一度に活動するお子様の数が適度になるよう、配慮して利用日や活動を組  |
|             | 2 職員の配置数や専門性は適切である                                   | 89% | 0%            | 0%  | 11%   |  |  |
|             | 3 事業所の設備は、スロープや手すりの設置などバリアフリー配慮がなされている               | 89% | 5%            | 0%  | 5%    | 玄関口しかみえませんが、整えられてると感じます  |  |
| 適切な支援の提供    | 4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されている           | 95% | 0%            | 0%  | 5%    |  |  |
|             | 5 活動プログラム*が固定化しないよう工夫されている                           | 84% | 5%            | 0%  | 11%   |  |  |
|             | 6 障害のない子どもと活動する機会を設けている                              | 11% | 11%           | 0%  | 79%   |  |  |
| 保護者への説明等    | 7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている                        | 95% | 5%            | 0%  | 0%    | 加算の範囲で相談など受けられると、聞くのですが、実際に何円なのか分かったと、安心するので知りたいと思う時があります。<br>とても丁寧であると感じます      | 具体的な金額も含め、保護者様に利用していただきやすいよう提示する方法を検討します。  |
|             | 8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている     | 95% | 0%            | 0%  | 5%    | いつも聞いてもらったり、様子をよく教えてもらいます  |  |
|             | 9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている                     | 95% | 5%            | 0%  | 0%    | 毎月の面談がとても心強く感じます<br>何でも話せるので助かります  |  |
|             | 10 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 32% | 0%            | 0%  | 68%   | そういった状況になったことが無いので、今のところ大丈夫です。<br>その様な案件には出会っていない                                |  |
|             | 11 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている                  | 84% | 0%            | 0%  | 16%   | その都度、話せたり記入したり、読んだりしている  |  |
|             | 12 定期的に会報やホームページ等で、活動や業務の情報を子どもや保護者に発信している           | 37% | 0%            | 11% | 53%   | 活動については、個別に教えていただいていますし、請求等の業務連絡はLINEで知らせてもらえて助かっています。                           |  |
|             | 13 個人情報保護に十分注意しているか                                  | 58% | 5%            | 0%  | 37%   |  |  |
| 非常時等の対応     | 14 緊急時等の対応マニュアルを保護者に周知・説明している                        | 63% | 0%            | 5%  | 32%   | 今まで、新型コロナに振り回されて深く考えていなかったのですが、緊急時の連絡方法を確認していなかったと思います。<br>電話で連絡取り合うことになるのでしょうか？ | 所内に緊急時マニュアルを設置し、緊急時はそれに従って保護者様に連絡をすることになっていますが、基本的に誰か職員が事業所に出勤することが前提の内容となっていました。第5波の緊急事態宣言発令と今夏の大雨をふまえ、職員が出動できない場合に備え、最小限の利用者連絡先を管理者の自宅で管理する旨を取り決め、その際に公式LINEで周知いたしました。が、十分な周知ではありませんでした。新年度に際して、改めてマニュアルの見直しと利用者様への周知を行いたいと考えます。 |
|             | 15 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている              | 37% | 0%            | 5%  | 58%   |  | 避難訓練は年2回実施しています。今年度は5月に1回目を行い、2月下旬に2回目を行う予定にしております。  |

|     |    |                 |     |     |    |    |   |   |
|-----|----|-----------------|-----|-----|----|----|---|---|
| 満足度 | 16 | 子どもは通所を楽しみにしている | 74% | 16% | 5% | 5% | 通所は嫌がるが、行けばそれなりに楽しんでいる。通うことを楽しみにしていて、ここ最近では苦手だったトランプの遊びを覚えて来たりして、親としても成長を感じています。波があるのでよくわからない | 学習活動が中心となっているため、お子様によっては、その日その日で勉強に気持ちが向かなかったり、通所を面倒と感じる日もあるかと思えます。少しでも前向きに取り組めたり、通所が楽しいと感じられるようにスケジュールや活動提供に工夫をし、自立的な学習習慣がつくように配慮をしていきたいと考えています。お子様の気持ちが上がるような声かけや配慮をして送ってくださる保護者様が多く、大変感謝しています。お子様の様子についても連携していきたいと考えていますので、ご心配なことがありましたらご相談いただくと嬉しいです。 |
|     | 17 | 事業所の支援に満足している   | 95% | 0%  | 5% | 0% | 送迎があると大変ありがたいです。いつも丁寧にみてくださって、とても満足しています。非常にお世話になっています  | 送迎については、今のところはサービス提供する予定がございません。時間帯によりますが、高学年さんや近隣にお住まいの場合に、自主通所の見送りや保護者連絡等の援助を行える場合もございますので、ご相談ください。   |

(注釈)

\* 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。

令和3年度多機能型事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス） 事業所における自己評価表（公表）

公表：令和4年2月15日

職員数：正規4非常勤5

事業所名：学びの広場じゃんぷ

回答数：正規4非常勤5

回収率：100%

| 区分                                 | チェック項目  | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |
|------------------------------------|---|------|---------------|-----|--|--|
| 環境・<br>体制整備                        | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である                   | 56%  | 33%           | 11% | 環境の見直しを行い、利用者と職員にとって適切な環境を検討している。<br>利用者の組み合わせ等も考慮して、現状のスペース 環境を最大限活用できるよう工夫している。  |  |
|                                    | 2 職員の配置数は適切である                                | 56%  | 11%           | 33% | 業務効率ができるだけ上がるようにはしている<br>放課後デイにかかわる指導内容を共有できる体制<br>づくりを始めている。  |  |
|                                    | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている            | 100% |               |     |  |  |
| 業務改善                               | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している | 89%  | 11%           |     | 出勤時間に時差があるため、話し合える時間の調整、確保が必要だが、利用者枠との兼ね合いで確保できる時間が限られてきている。<br>週に一回の職員会議は、広く議題を取り扱っている。<br>全員で協議して、指導目標（計画）や指導内容について進める体制ができている。限られた時間ではあるが協議する時間を確保しようとしている。 | 壁面ボードでの連絡やスケジュール共有や職員SNSをうまく活用していく。業務共有のための一元的な業務マニュアルを年毎に更新している。PDCAについての具体的な検討についてはこれから。   |
|                                    | 5 アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている        | 89%  |               | 11% |  | アンケート調査は、例年、1月に実施している。非常勤職員は昨年10月から勤務が開始されたため、まだアンケート調査を経験されていない方が多く、このような結果になったと考える。  |
|                                    | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している            | 67%  | 22%           | 11% |  | ホームページで公開している。   |
|                                    | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている              | 44%  | 33%           | 22% |  | 毎年違った方にさせていただいている。今年度についてはこれからしていただくが、経験豊富な方をお願いする予定であり、業務改善の契機としていきたい。  |
|                                    | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している                 | 67%  | 33%           |     | 小学校に就学するタイミングや放課後デイの指導内容はできるだけ切れ目のない支援が必要とされる。その際に地域の学校の通級担当者（コーディネーターとしても）とできるだけ連携することがより良い支援につながる。そのためにも読み書き障害についての学習会を積極的に計画するなど工夫している。                     |  |
| 適切な支援の提供                           | 9 子どもと保護者のニーズや課題を分析した上で、個別支援計画を作成している         | 100% |               |     | 事前に、保護者の意見やアンケートも聴取した上で、見直しと目標設定、すり合わせを行っている。<br>子ども自身から相談したいこと、教えてほしいことなどが出てくるように配慮している。又保護者とできるだけ話をする機会を設けていることも大切な機会となっている。                                 |  |
|                                    | 10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している   | 89%  |               | 11% | 指導、支援を始める際に、できるだけ標準化されたアセスメントを提供いただき、それを活かした指導方法について協議している。  | 適応行動の状況を図るアセスメントは使用していない。本事業所で活用しているアセスメント（知能検査・発達検査・読み書き検査等）は費用がかかったりアセスメントを受けられるところが地域に少ないこともあり、利用者にはアセスメントを受けておられない方もおられる。事業所で実施できるアセスメントについて、必要であれば保護者様と相談しながら行っている。 |
|                                    | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている                       | 100% |               |     | 短時間ではあるが、今日の活動について全員で確認する時間をとったり、子どもの変化の様子について共有をしながら、ポイントとなる支援について確認ができている。   |  |
|                                    | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している                     | 89%  | 11%           |     |  | 日々の業務の傍ら、活動プログラムが固定化しないようにすることは大変なことであるが、教員経験や心理職、福祉従事者など、それぞれの職員の経験や専門性から、互いにアドバイスをもらい、利用者に合わせて内容を検討している。   |
|                                    | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している         | 67%  | 11%           | 22% | 平日、休日に関わらず時間設定しているため長期休暇についての支援はしていません。<br>季節に合わせた課題の提案はされている。<br>十分ではないが、家庭での平日や長期休暇中が保護者や子どもたちにとってしんどいことであるという認識を持っている。事業所に来ている一日だけの課題や願いではないという意識をもっている。    |  |
|                                    | 14 子どもに応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している    | 100% |               |     |  |  |
| 15 職員間でその日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 89%   | 11%  |               |     | 放デイについては、短時間であるが、開始前に各利用者のスケジュールと職員の動き、配慮点について打ち合わせる時間を設けている。児発については、マンツーマン指導が多いため、打ち合わせはしていない。  |  |

| 区分           | チェック項目                                       | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | 工夫している点   | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標  |
|--------------|--|------|---------------|-----|---|---|
| 適切な支援の提供     | 16 職員間でその日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している       | 78%  | 22%           |     | 放デイの自立学習部分は、各利用者の様子を記入するシートを職員が共有して書くようにしている。   |   |
|              | 17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている   | 89%  | 11%           |     | なかなか十分な時間は取れないが、指導した日の近い期間でできるだけ記録を残し検証するスタイルはできている。  |   |
|              | 18 定期的に事後評価を行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している         | 100% |               |     |   |   |
|              | 19 療育・創作・交流・余暇支援の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている       | 89%  | 11%           |     |   |   |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に最も心ざわしい者が参加している      | 89%  | 11%           |     |   |   |
|              | 21 学校との情報共有、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている | 89%  | 11%           |     |   |   |
|              | 22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている |      |               |     |   |   |
|              | 23 就学前に利用していた事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている         | 56%  | 44%           |     |   | そのような利用者がまだおられない。必要な情報は相談支援事業所とのやりとりの中で提供していただいている。   |
|              | 24 障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、情報を提供している             | 67%  | 33%           |     |   | 利用が中学生までのため、そのような利用者がおられない。   |
|              | 25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関の助言や研修を受けている  | 56%  | 22%           | 22% |   | 発達障害の専門機関の助言は受けていないが、臨床発達心理士や特別支援教育士といった資格に関わる研修やLD関連の協会や医療機関が実施する専門研修は、各々、職員が受けている。  |
|              | 26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない地域の子どもと活動する機会がある   | 11%  | 44%           | 44% | 地域に所属があるので、療育では設定していません。事業所内での活動が主なので、その機会がない。  | 乙訓地域の療育は、並行通園タイプ（普段は保育所や幼稚園に通い、週1回療育に通う）であり、本項目が示唆するインクルージョンの機会提供は、基本的に本事業所で行う必要はないと考えている。放デイについても、地域の小中学校に通う方が利用対象のため、改めて機会提供の必要を感じない。     |
|              | 27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している                   |      |               |     |   |   |
|              | 28 日常的に保護者と子どもの発達の状況や課題について共通理解を図っている        | 100% |               |     |   |   |
|              | 29 子育て支援として、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている    | 67%  | 33%           |     | ペアトレの支援をされているかわかりません。日常支援が終わった後の保護者への報告はしていたが、保護者も子供も集団の中で感じたり考えたりする機会は貴重である。ペアレントトレーニングを開始し、一緒に考えあう雰囲気ができるようになった。個別の話の中でも、担当者は意識的にこの視点は話していたので、形態としても実際に始められたことが大きい。 | ペアトレのインストラクター講習を受講し、インストラクター経験のある職員がおり開始できる状態ではあるが、療育については利用時間がバラバラであるため、保護者の予定をそろえにくい現状があり、シリーズでのペアトレ開催がなかなか実施できない（茶話会というかたちで保護者交流を行っている）。 |
| 保護者への説明責任等   | 30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている          | 100% |               |     |   |   |
|              | 31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  | 100% |               |     | 連絡票も用いて、日常生活の困り事や園行事などの心配事などに対応できるようにしている。  |   |
|              | 32 子どもや保護者からの苦情について、迅速かつ適切に対応している            | 100% |               |     |   |   |
|              | 34 定期的に会報等を発行し、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している    | 89%  | 11%           |     | LINEのオフィシャルアカウントを使って、アナウンスしている。ブログなどでも支援の意図や意味を広げている。   |   |
|              | 35 個人情報に十分注意している                             | 89%  | 11%           |     |   |   |
|              | 36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている       | 100% |               |     |   |   |
|              | 37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている        | 44%  | 22%           | 33% | 地域との交流があるかわかりません。地域の教員や支援者に来ていただいて、学習会を行っている。   | 地域との交流は行っていません。   |
| 非常時等の対応      | 38 緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している     | 89%  | 11%           |     |   |   |
|              | 39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている        | 78%  | 22%           |     | 勤務してから間もないので私はまだ経験していません。   | 避難訓練は年2回で、1回目は5月に行った。2回目は2月下旬に行う予定にしている。  |
|              | 40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている        | 89%  | 11%           |     |   |   |
|              | 41 身体拘束について、保護者に事前に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している  | 56%  | 22%           | 22% | そのような状況は今のところない。身体拘束する対象者がいません。   |   |
|              | 42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている      | 78%  | 22%           |     |   |   |
|              | 43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している                 | 44%  | 44%           | 11% |   |   |

令和3年度自己評価と保護者評価について 第3者意見

評価日 : 令和4年2月19日

第3者評価者名 : 坂根みどり

事業所名 : 学びの広場じゃんぷ

児童発達支援 ・ 放課後等デイサービス

| 区分       | 評価  | 助言  |
|----------|---|---|
| 環境・体制整備  | <p>体制について事業所側が課題としているところが具体的にわからないのですが、配置数の課題を効率化を図って補うという事であれば保護者からの評価と合わせて見ると改善の方向で工夫努力をされていると見て取れます。動線を意識した配置やバリアフリーの配慮の保持に努められていてスムーズに学びに入れる環境となっているところが評価に値します。</p>                    | <p>体制や配置数については質の担保に配慮しながら効率化を速やかに図っていくのが理想ですが一朝一夕にできるものではないので、もう既にされていると思いますが、ひとつひとつ実践のフィードバックをしながら、実態や課題に合った手立てにかかる時間の検討と資料化を職員会議等で進められるあるいは続けられることをお勧めします。(時間を要しますが先々のためには有効になるのではないのでしょうか。)</p>  |
| 適切な支援の提供 | <p>ねらいが明確な個別の支援計画が作成できていて日々の活動に反映できていることが伺えます。日々の活動について職員間で共有したり確認したりのフィードバック機能が働いています。職員間の支援の交流は個別療育になるとどうしてもイメージの共有の難しさや打ち合わせの必要性の希薄化で実施や継続が難しいですが、内容の差や偏りを招く事があるので共有されることをお勧めします。</p>    | <p>行動アセスメントについてはVinland-IIを実施して適応行動をはかるのが理想ですが、その項目を参考にしてアセスメント票のテンプレートを作成し、保護者の方にアンケートを実施の際に聞き取りをすると、個別の支援計画作成に役立ちます。保護者のニーズにもよりますが、わが子理解を進め職員と共有できるツールにもなります。また、職員にとってはどの様な行動をアセスメントすればよいのか視点を学ぶ機会ともなります。療育の時に子どもたちが発した言葉を(負担の無い程度に)記録しておく、社会性の変化が明確になり的確な手立てについてのヒントになります。</p> |
| 保護者への説明等 | <p>保護者の方々への長期的な支援の内容や利用者負担については勿論の事、日々の支援の内容や対応についての説明責任は概ね果たされていると見て取れます。子どもや保護者からの『苦情対応』の項目は、68%の保護者が『わからない』と回答しているのは、そうした事が無いからとも取れますが、『苦情』という言葉のイメージや定義が共通のものではない可能性もあるのではないかと思います。</p> | <p>保護者の方々との連携活動は、どうしてもコロナ禍で制限され疎通が滞りがちになります。その様な中でも細やかな配慮によって齟齬なく成されている様子が見られますが、この特異な状況で工夫や配慮された事柄については支援計画の総括時でもよいので記録を残される事をお勧めします。また、アフターコロナが何時になるのかわからないので、今年度のコロナ禍の実践をもとに来年度の発展的な支援計画を検討されると思いますが、その際には地域や学校連携や保護者相互の交流等については慎重に時には計画に盛り込む事を止める選択肢も持たれては如何でしょうか。</p>        |
| その他      | <p>事業所の自己評価に『虐待防止のための研修会を確保する等の適切な対応をする』という項目がありましたが、虐待対策は多様多角的に見て予防策を考えて行かなければならないと思います。</p>   | <p>事業所のように、対子どもたち、対保護者、対職員相互間で異なったパワーバランスを保たねばならない機関では虐待防止のための多様な正しい意識と実践が求められます。理想的な研修を請け負ってくれる人や機関は多くはありませんが慎重に選択して研修を実施されることをお勧めします。</p>   |